

生徒の演劇活動から学ぶもの

甲南女子大学日本語日本文化学科 富田幸子

1. はじめに

自分とは違う他者になり、その立場での感情にふれることが可能となるのが演劇である。渡辺（2008）は、演劇の強みとして「現実の自分以外の存在になって想像上の空間を生み出し、その世界を経験することが出来る」ことをあげ、「現実目に前に存在するわけではない物語の世界や歴史上の出来事などを自らの感覚を結びつけながら理解していくことが出来る」と論じている。現実以外の立場に立つということは、自分ではない他の人になって話し、行動する活動であり、「設定の役と自分の間に距離を置き、普段立つことのできない立場に立つて、その役割の人物に主体的に近づいていくことで世界は多様な価値を持った人々で成り立っていることを理解し、複眼的な見方が育つ」（渡部、2001）ということがいえる。そうした効果をもたらす演劇は、学校現場でも特別活動領域の文化的行事として実施され、教科の中の言語活動としても取り組まれている。

筆者が中学生の頃、1～3学年の国語の教科書には「戯曲教材」が掲載されており、学級ごとの小規模の発表ではあったが、演劇活動をする授業があった。放課後に残りみんなで意見を交わしながら練習をし、演劇部に所属しなくても演劇を見たり演じたりと、演劇は身近なところにあったという実感がある。しかし、現行（平成29年告示 学習指導要領）の中学校国語の教科書においても、演劇の脚本すなわち「戯曲教材」を採用している教科書は一つも見当たらない。国語の授業における戯曲を使った演劇の学習活動はほとんど取り組まれないというのが実情である。最近の若い世代の教員に尋ねると、小・中・高校の時に、演劇を自分が体験することはもとより、あまり見たことがないという声もよく耳にする。そのため、学校現場では、他者の立場に立つて演じる演劇を子どもたちに指導することに関心はあるものの、実際自分が指導するのはハードルが高いといった認識が一部の教員に根強く存在する。自分が学生の時に見たことも経験したこともないものを、ファシリテートするというのは難しいというのも当然であろう。

ただ、こうした演劇活動は、今、小・中学校の教育現場から消えつつあるというよりも、舞台装置など大がかりな準備を要する演劇が減少しているというのが当てはまるだろう。小学校での学芸会においては、演劇はやはり発表の中心に位置付けられているし、中学校では国語の授業時間以外での「演劇的空間」を作る取組は様々に存在する。また、戯曲教材でないものの、平成14年度三省堂教科書の「言葉で通い合う」という単元の中には、平田オリザ著の対話劇教材が掲載されていた。この単元では「対話を考える」という説明文のあとに、電車で席が向かい合った初対面の者同士の対話を考える「対話劇を体験しよう」といったワークショップ型授業が提示されている。これは舞台上に立つての発表・映画のようなドラマ作りという形態ではないものの、演劇的要素を加味した国語の授業時間内の学習である。また、国語の授業の枠組みでなくても、総合的学習の時間や特別活動を使った演劇としては、ロールプレイや寸劇、インプロなど、短時間で取り組まれる形態も多い。

A市において、そうした大がかりな舞台装置を必要とせず、一定期間だけの集中した練習によって行われてきた演劇として、いじめ撲滅劇の上演がある。これは平成20年度より約10年間続けられたもので、A市に存在する12校の中学校生徒会メンバーを集めて行う、学習指導要領の中の特別活動の領域に該当する活動である。

筆者はそのいじめ撲滅劇制作の指導者を務めていた。それまで、筆者自身、本格的に演じるという活動を経験したわけでもなく、演劇についての詳しい専門知識も技術を身につけていたわけではない。しいて言うなら演劇が好きで、勤務する中学校の文化祭ではいつも演劇での発表を積極的に取り組んでいたこと、個人的にも舞台や映画鑑賞などに足しげく通っていた、それ程度くらいのものである。一緒に指導に携わる教師も演劇部の顧問等本格的な指導者は存在しなかったが、いじめを少しでもなくするという取組に何人もの教師が熱心に参加していた。

2. いじめ撲滅劇上演の背景

A市で取り組まれるいじめ撲滅劇上演の背景には、教育現場でのいじめ問題の増加がある。いじめ問題は深刻化し、社会問題として注目をされるが、再び深刻化するという悪循環を繰り返しており、メディアの取りあげ方も衝撃的な事件が起きた時に、関心を寄せるといった傾向が見られるといった点が指摘されている(尾木、2013)。そうした社会的な風潮の中で、学校現場ではいじめ問題と向き合い、いかになくしていくかが重要な課題となっている。それまでも、A市ではいじめ防止に向けて様々な取組がなされていた。いじめをなくするという啓発活動であるポスター制作、朝礼で披露する簡単な寸劇等である。ただそれらは、各校ごとの独自の取組だったため、今後生徒会活動をより発展させるために、全校でアイデアを出しあえる生徒会の交流は欠かせないという声があがるようになっていた。そうした交流の中でいじめについても何かできることを考えようという活動が提起されていった。

平成20年は、市内の生徒会執行部メンバーがA市の市議会本会議場において、いじめについて徹底討論を実施した年である。昨今は子どもたちのコミュニケーションの希薄さが叫ばれ、中学校でも討論する機会があまりない。しかし、生徒たち自身の生の声を拾うために、教師がファシリテートするのではなく、司会も含めてすべて生徒だけで進行する形とした。中学生は自分たちの身の回りで起こっているいじめをどう考えているのか、生徒たちだけでどのような討論が展開されるのか、多くの教師が関心をもってその日の市議会本会議場に集まっていた。自分がいじめた経験、いじめられた経験、友達がいじめられたとき何もできなかった後悔など、様々な思いや考えが語られ、討論は驚くほど白熱した。最終的に「いじめは自分のストレスなど心の問題という点が大きく、いじめをなくす取組として、心を揺り動かすような演劇の上演をしよう」という提起がなされた。

3. いじめ撲滅劇制作のプロセス

富田(1993)は、劇の脚本について「子どもたちの演ずる脚本は、子どもたちの感じ方・考え方からひどくとびはなれたものであってはならない。(中略)子どもたちが自分の生活

から出発して、その脚本の役を演ずることが出来るような内容によって書かれていることが必要であり、さらに、それを演じることによってこどもたちの感じ方・考え方が次の段階へとひきあげられるよう構成される必要がある。」と述べている。脚本は、生徒の意見を反映することで、大人や教師が気付かない視点を入れることが可能となり、よりリアルな作品に仕上がることが考えられる。そのため、このいじめ撲滅劇の上演に当たっては、脚本作りから生徒同士で話し合いを持ち、全体の大きな流れ、いわゆるプロットを考えるところからスタートした。

いじめ撲滅劇の具体的な制作過程は次のとおりである。上演（夏休み）の約半年前である2～3月に2回、シナリオ委員会を開く。委員会は、A市の12校生徒会執行部の中のいじめ撲滅劇に関心を持っている有志のメンバーで構成される。その委員会では、①自分たちの身近で見聞きするいじめの実態を描く。②今、ネット社会での事象を取り上げる。③いじめ撲滅劇のプロットなどについての意見を交換するなどが確認され、そこで出された意見を参考に最終的には筆者が脚本にまとめるといった手順で進めることとした。

A市のいじめ撲滅劇は、2018年度までに年に一度のペースで計10作品が上演されてきた。上演される劇はどれも45分から1時間ほどの作品である。休日に劇参加生徒が一つの学校に集まり8回～10回ほどの練習を経て上演当日を迎える。毎年夏休み、350名ほど収容可能な会場に、地元の小・中学生をはじめとして、教職員・保護者・地域の人々が鑑賞に訪れる。当日、小学校の児童会の生徒が劇を直に鑑賞することで、中学校での生徒会活動にあこがれを感じ、中学生になった時に生徒会に立候補する生徒もまれていた。

4. オリジナル脚本のねらい

劇の内容としては、日常の学校生活の中で、生徒自身が感じる現実的ないじめの実態を描く上で、

- ①学校の中で行われる大きな行事を扱う。
- ②学級内でのいじめが起こる状況を描き、個人でなく学級としての変化を描く。
- ③リアリティを追求するために、LINEの画面を盛り込み、中学生を取り巻くネット文化の実態も描く

といった点を踏まえることとした。

行事を取り上げるのは、大きな行事のあとでクラスの人間関係が大きく変わることを生徒自身が体験しているからである。体育大会・文化祭・修学旅行・そして卒業式などは、1年間の中でも最も大きな行事といえるが、そのため、クラスとしてまとまりを作りやすい反面、トラブルも起こりやすく、いじめ事象に発展していくという展開は、今を生きる中学生にとってイメージしやすいものである。

いじめの場として学級を設定するのは、学級が学校生活の基盤であり、教室は居心地・安心感を構築していく空間として中学生活には不可欠であるにも関わらず、教室の中が一番いじめがうまれやすい場所であるからである（森田、2010）。他者との相互作用する中で、個人というより学級という場自体が変容していくプロセスを描くこととした。

また、中学生が使うツールの中心である LINE の場面を劇中に取り上げるのは、ネット社会の中でいじめが深刻化・複雑化していく過程を描くことで、見ている者がよりリアルに感じることができるからである。

現在ではメールという言葉ももはや聞かなくなり、LINE、Twitter という SNS が、中学生のコミュニケーションツールの主流となっている実態がある。めまぐるしいスピードで広がる中学生を取り巻くネット普及の実態は、いじめ事象を描く上で欠かせない。今から 10 年前の 2011 年というのは、おりしも LINE が登場した年であり、いじめの形態そのものが変化し始めていた。いわゆる「物を隠す」、「面と向かって悪口を言う」、「暴力をふるう」という明らかに目に見えるいじめに対して、相手の誹謗中傷を繰り返すネット上でいじめが、教師や親の知らない所で行われるようになっていた。ネットいじめが、現実のいじめ事象の上に加わり、いじめの実態を更に深刻化させている。したがって、いじめに気付いた時には、解決にも時間のかかる深刻な事態に陥っているというケースも少なくない。

最終的には、ネット社会とどう向き合い、どのようにつきあっていくべきかを考えさせることもねらいとした。

5. 演劇活動に携わるとのこと

今回、最後に紹介する平成 25 年上演の「夕暮れのスケッチ」は、部活動でのめもごとを根底に描いている。いじめのターゲットになった主人公が修学旅行に行けなかった中で、クラスメート全員が修学旅行 1 日目のホテルの大広間で、自分たちのことを振り返り、主人公についての意見を交わすという構成である。

学校を舞台とし、いじめが起こった後の壮絶な親のやり取りを描いた作品に畑澤聖悟の戯曲『親の顔が見たい』がある。この作品は、いじめの加害者であることを頑なに否定するいじめ加害者側の親たちと教師が一堂に会するといった、いわば会議のような場面が描かれている。それは畑澤聖悟の他の戯曲である、学校の校長の職選びを描いた『召命』、老舗の放送局でリストラ候補を決める『俺の屍を越えていけ』でもみられる。そうした会議の場では、お互いの気持ちを生々しく吐露しあう場面が描かれ、観客の集中を一気に引き込んでいく効果がある。

畑澤は現在も執筆を旺盛に続ける第一線の劇作家であり、また高校教師でもある。そのため学校を描いた作品がいくつもあるが、彼が教師として演劇を指導する中で、演じる生徒たちにどのようなことを感じるかを述べたものがある。「教員は人に物を教えるという、非常に不遜なことを仕事としています。もちろん、教育と名の付くものはとかく時間が掛かるもので、成果が見えにくい場合が多い。それが演劇の場合、「ここがゴールだよ」と示すと、部員は一丸となってそこへ向かい、必要なことを身に付け、できるようになっていく。台本の完成が遅く、大会本番の 3 日前にできたとしても彼らはちゃんと上演する。何せ人生で一番記憶力が良い時ですから。物を教える立場の人間として、対象が音を立ててみるみる上手くなっていく場に立ち会える、これ以上の快感はありません。」

いじめ撲滅劇に携わってきた筆者も、演劇指導の中でこれと同様の思いを抱くことがあ

る。いじめ撲滅劇はわずか10日ほどの休日を利用しての練習である。そこに集まる生徒会の生徒は、本来の部活動との掛け持ちで参加しており、時には試合などで練習に参加できないなど、条件も決して良いものとはいえなかった。しかし、演技についての絶対なマニュアルがない中で、練習を重ねるごとに、生徒同士が演技についてもお互い語り合い工夫する場面が増えていった。さらには、いじめ撲滅劇を数年継続していると、過去のいじめ撲滅劇参加の卒業生たちが練習に駆けつけ指導にあたると共に、欠席生徒の代役を引き受け練習に参加するなど、生徒による、より主体的な活動へと変容していった。

つまり、練習を継続する中で、思春期真っただ中の多感な中学生が劇的に変わっていくのを教師はそばで見ることになるのである。また卒業生たちから、その後の高校生活の中に、この中学時代のいじめ撲滅劇参加の経験が大きく影響しているという実態が語られることもあった(竹内・富田・安東、2020)。教師は日々生徒を大切に育てたいと思い、働きかけている。ただ、生徒と接する中学時代の3年間で答えが出ないことも多々あるのが教育現場である。にもかかわらず、演劇の活動というのは、数週間、数か月の短期間であっても、自己の殻を破り大きく変容する生徒の成長をそばで見守ることができる。それは、まさに学校演劇を指導する者の醍醐味である。

演劇という活動をあまり経験したことがない教師が増えている昨今ではあるが、生徒の成長を身近に感じとれる実践を多くの教員に、特に演劇を経験したことのない若い世代の人たちに味わってほしいと思う。また、生徒の自己成長に繋がる演劇活動が、学校の文化づくりの中心として今後も発展的に引き継がれていくことを願うばかりである。

最後に、平成25年にA市で上演された「夕暮れのスケッチ」の脚本を以下に記す。この作品は、二幕からなるもので、NHKの「ニューステラス関西」の「ハロー！スクール」のコーナーでも、上演に至るまでの経緯と当日の上演の様子が紹介された。

<参考・引用文献 資料>

- ・渡辺貴浩 (2008) 「ドラマ」が学校教育をかえるためには何が必要か シアターポリシー 48
- ・渡部淳 (2001) 教育における演劇的知—21世紀の授業像と教師の役割— 柏書房
- ・「現代の国語」中学2年(平成14年度版) 三省堂
- ・尾木直樹 (2013) いじめ問題をどう克服するか 岩波書店
- ・富田博之 (1993) 演劇教育 国土社
- ・竹内和雄、富田幸子、安東茂樹 (2020) 「いじめ撲滅劇」の参加が中学生の自己変容の転機として人格や進路に与える影響—M-GTAによる質的調査分析— 芦屋大学論叢 73号 43-54
- ・森田洋司 (2010) いじめとは何か—教室の問題、社会の問題— 中公新書
- ・「地域」と「学校」—ふたつの視点から演劇界を見つめる畑澤聖悟 https://performingarts.jp/J/art_interview/0904/1.html (アクセス 2022.1.31)

「夕暮れのスケッチ」

<登場人物>

高橋 (男)	転校してきた生徒。バスケに入るが、いじめのターゲットなる。
藤井 (男)	高橋の親友。バスケ部の副部長。レギュラーになったことがない。
平川 (男)	男子学級委員 バスケ部
林田 (女)	皆に信頼されている女子学級委員
山岡 (女)	意見の言えるしっかりした生徒
大西 (男)	ひょうきんな生徒、クラスのムードメーカー。
松本 (男)	バスケ部の部長。口数が少ないが、まじめな生徒
鳥居 (男)	バスケ部でレギュラー。高橋に反感を持っている
神崎 (男)	バスケ部、鳥居・松本の友達。同じく高橋に反感を持っている
石原 (男)	バスケ部
植村 (女)	意見をズバズバ言える生徒
池上 (男)	少し軽率なところもある生徒
緒方 (女)	以前いじめられていたおとなしい生徒
森本 (女)	おとなしい生徒、緒方の友達
木下 (女)	1人単独行動をする生徒。クラスの様子をよく見ている
谷崎 (女)	レギュラーはずされた鳥居の味方をする女子
中川 (女)	レギュラーはずされた鳥居の味方をする女子
田村 (男)	長崎の中学生。高橋の親友。
谷井 (男)	バスケ部の1年生。途中でやめる。
渡辺 (男)	バスケ部の1年生
西田 (女)	自分の意見を言える生徒
山本 (女)	おとなしめだが、自分の意見を言える生徒
村上先生	女性の担任

上演時間 45分

Sはシーン(場)を表す

第一幕

S 幕前 (オープニング) 開演ブザー

林田 大変です。みなさん、聞いてください。私たちの劇上演まで・・・あと少ししか時間がありません。

松本 なのに・・・いまだに台本ができあがらず!(頭を抱えながら) どうしたらいいんだ?

中川 (藤井を指しながら) 台本のまとめ役は、今回も実行委員長の藤井君～。

※ 少し離れた所で机に向かいひたすら台本を書いている藤井。

松本 でも、みなさん、藤井の奴・・・やる気はあるけど、ほんとのこと言うとセンスなし!

林田 これまでの台本だって、バクリまくりのオンパレード！
山岡 バクリと言えば・・・去年の作品は「走らないメロス」だったよね。
中川 「家政婦の三田」が流行ったときは、「承知しました」のセリフを13回連発！
松本 あれ、やるのは・おれ・・・恥ずかしかった・・・。（「家政婦の三田」のポーズをとり
「承知しました」という）
山岡 とにかく、台本が早く仕上がることを・・・私たちは祈るばかり～。（祈りのポーズ）
林田 藤井君 頑張ってる・・・。時間ないよ～。
暗転 BGM 藤井1人に次第にスポット
藤井 N いじめがいいなんて・・・誰も思っていない。そんなやつ・・・世界中のどこを探した
って・・・いるはずがない。みんな自分がいじめられないように、自分を守るために・・・。
どうしたらいいか、みんな考えながら・・・生きてるんだ。
暗転 幕が開く

第二幕

S 教室

※ 全員席に着いている。
先生 皆さんに紹介します。長崎の立川中学校から転校してきた高橋くんです。
※ 既に高橋を知っていて嬉しそうな顔つきの藤井、他のメンバーは驚いている。
林田 高橋くん・・・？
植村 もしかして
西田 あの・・・高橋くん。
先生 高橋くんは、元々あなたたちと同じ田端小学校にいたんだよね。知ってる人もけっ
こう多いって聞きました。
林田 私・・・4年の時、同じクラスでした。
山岡 恵美、確か高橋くんと、学級委員してたよね。
林田 う、うん。（頷く）
先生 この中学のことは、わからないことも多いだろうから、みんな色々声をかけてあげ
て下さい。じゃあ、高橋くん、ひとこと挨拶してもらえますか？
高橋 長崎の立川中学校から転校してきた高橋です。みんなと会えてすっごく嬉しいで
す。この学校のことはわからないことだらけなので、よろしくお願いします。
※ みんなが拍手。特にうれしそうな藤井。
暗転 放課後のBGM
※ 掃除が始まり机を運んでいる。何人かが興味津々に高橋の周りに集まってくる。
山岡 （近づいて）タッカハシ君、私のこと覚えてる。
高橋 え～と。
山岡 山岡！山岡みちる。

高橋 そ、そう、山岡さん！山岡さんとは幼稚園も一緒だった。(満足そうに頷く山岡)

西田 3年のこの時期の転校って・・・珍しいよね。

高橋 親父の転勤。今まで・・・3回も転校したんだ。

大西 転校っていつでも、もともとここにいたんだし・・・すぐなじめるよ。

※ 笑顔で頷く高橋、横で藤井もニコニコ聞いている。

池上 高橋は、前の学校では、何のクラブだった？

高橋 バスケ。

池上 バスケか・・・。おまえ、運動神経抜群だったからな～。陸上部入らないか。

山岡 高橋くんだったら、すぐ試合出られるよ。

平川 何に入るか、決めてるのか？

高橋 やっぱバスケかな。この学校、強い？

大西 けっこう強いぜ。

谷崎 市の大会だと・・・。いつも3位には、入ってるもんね。

藤井 浩介、おれ・・・バスケなんだ。

高橋 えっ！そうなんだ。

山本 この前の大会で、念願のベンチ入りしたんだよね～。

藤井 (泣くように) やっとユニホームもらいました。

池上 (ふざけた感じ、叫ぶように) おめでとう。

※ 茶化す感じで、みんな拍手する。

藤井 (泣くように) ありがとう。ありがとう。(みんな笑う) 今から、体育館で練習だけど、浩介、見に来る？

高橋 行く、行く！顧問の先生って、どんな先生？

藤井 隣のクラスの遠藤先生。

植村 休みの日もガンガンに練習・・・。私たちの陸上部とは大違い(笑)

高橋 今からでも入部させてくれるかな。

藤井 もちろん。浩介がくれば・・・みんな喜ぶよ・・・。

大西 今度の大会、もうすぐなんだろ。

藤井 うん、みんな頑張ってるんだ。行こうか！

高橋 うん。

※ 2人いそいそと退場

森本 高橋くんって、そんなに運動できたの？

大西 抜群だったよ！・・・もしかしたら、このクラスで一番走るの速いかもな。

谷崎 じゃあ・・・体育大会のアンカー決まりね！

林田 覚えてる？小学校でドッジボールした時、高橋くんの投げるボール、めちゃめちゃきつくて！

植村 こわかったあ～。私・・・必死で逃げてた。当たったら痣ができそうで・・・。

山岡 まともに相手してたの、松本ぐらいだったんじゃ。

中川 このクラスの松本・・・？
池上 松本なら、高橋と張り合えるかもな。あいつも、何だってできるだろ。
山岡 でもね・・・松本くんは・・・今は部長なんかしているけど、小学校の時は結構おとなしかったんだ。全然目立ってなかった。

暗転 BGM

舞台中央にスクリーンが下りてきて、ビデオ（バスケット部の練習風景）が流れる

藤井 N 結局、浩介はバスケット部に入った。みんなビックリしていた。ドリブルもパスも、チームの中で群を抜いている。向こうの学校でも、主力選手だったことは間違いない。みんな、今度の大会に勝ちたかった。県大会決勝進出・・・それが僕たちの悲願だった。浩介が入ることで、チームの力は確実に上がっていく・・・。最初はみんなそう思ってたんだ・・・。

S 幕前 グランド

登場人物にスポット

※ 高橋が1年生に熱心に教えている。

高橋 そうそう。その調子・・・。ドリブルは、ボールから手が離れない感じにやるといいんだ。2人とも右利きだろ。

谷本 はい。

高橋 だったら、左手も器用に動かせるよう、飯の時も左で食べるとか、意識して生活するんだ。両手でドリブルできるようになると、プレーは絶対有利だから・・・。

谷本 はい、やってみます。

渡辺 先輩！ありがとうございます。

※ 1年生の2人、上手へ退場

藤井 （下手から入り、1年生とすれ違う）また、1年生のアドバイス・・・！相変わらず、面倒見いいな。

高橋 熱心なんだ、あいつら・・・。（ペットボトルの水を飲む）

藤井 この前、俺、聞いてちゃったよ。高橋先輩が初めからいたら、1年もあんなにやめなかっただろうって・・・。

高橋 このクラブ、1年生が少ないけど、やめたのか？

藤井 初めは20人はいたかな。おれたちのバスケット部、練習きつくて、毎年ついていけない奴が必ず出る・・・。おれが1年の時だって、先輩は厳しかったし、すぐくしごかれた。先輩っていうのは怖くて、遠い存在で・・・1年が3年にまともにしゃべることなんて・・・出来なかったよ。1年にあんまり親切にするのも、浩介・・・。そこそこしろよ。

高橋 （笑いながら）ちょっと教えてだけじゃないか。

藤井 前々からのやり方があるんだよ。3年生はさ、もっと威厳をもたないと・・・。部活のLINEでもお前のやり方のこと・・・書かれてただろ。

高橋 (ため息) めんどくさいな、そう言うのって・・・。
藤井 おれ、見てて・・・はらはらするんだ。1年みんなが、お前を頼って来てる。それを面白く思っていない奴もいるってことさ！いいか、部長は・・・松本なんだからな・・・。
高橋 わかったよ。でもな。さっきの谷本、センスいいんだ。おれたち3年がプレーするのあと2カ月だし・・・。引退したら、なかなか教えてやれないだろ。まあ・・・あまり目立たない程度に適当にやるから・・・。(笑う)

暗転

S 教室 放課後

※ 上手から先生と一緒に高橋が段ボールを運んでくる。みんなで修学旅行の葉づくりをしている。

先生 高橋くん、ありがと。学級委員、全員の葉を仕上げたら、あとで先生のところ、持ってきて。(上手へ去る)

林田 はい。

大西 長崎かあ・・・。楽しみだなあ～。

西田 九州行くの・・・初めてなんだ・・・私。

山本 私も・・・。

林田 ね、向こうにいったら、2日目の自由行動の時、みんなで中華街に行こうよ！

森本 中華街・・・？

大西 森本・・・知らないのかよ、中華街だぞ！

谷崎 有名な観光スポットじゃない。

西田 そういえば・・・高橋くんは、長崎にいたんだから色々詳しいでしょ。

高橋 チャンボンも中華マンも中華街で一番おいしい店知ってる！みんな案内するよ！

※ 「やったあ・・・。」と数人が喜んでいる。

※ 高橋が嬉しそうにみている

石原 チャンボンに肉まんかあ・・・。おれ・・・カステラも・・・好きだし・・・。

大西 楽しみだなあ・・・生きてて良かった！(石原と手を取り合う)

(冷めた感じで) チャンボンかあ・・・神崎、食べたことあるか。

神崎 麺が太いやつだろ。俺は・・・やっぱ・・・チャンボンよりラーメンだな。

鳥居 俺も・・・。

林田 そんなこと言わないで、本場のチャンボン、みんなで食べに行こうよ。

鳥居 ま、考えときま～す。・・・水飲みにおこうぜ。

神崎 ああ。

※ 松本ら3人が教室から出ていくのを気にしている者がいる。

谷崎 高橋くん・・・長崎に何年住んでたの？

高橋 2年。

山本 自分の住んでた所が、修学旅行だなんて、つまらないでしょ。

高橋 そんなことないよ。長崎つて見る所いっぱいあって、夜景なんか最高だし・・・。1
回行けば、みんな、きっとまた行きたくなるよ。

植村 お父さんの転勤だったっけ、ここに来たのは・・・。

高橋 (話題をそらす感じで) 今度行ったら、自由時間の時、向こうの友達にも会いた
いなって思ってるんだ。

植村 へえ・・・。どんな人？

山岡 かつこいいの？

高橋 俊介っていうんだけど、バスケやってて、かつこいいのは俺と同じぐらい・・・いや、
あっちの方が上。(笑う)

植村 紹介してよ～！

山岡 まずはLINE で知り合いになるとか！

高橋 フッ(笑) 俊介はどう思うかな？それに俊介、モテモテだから、競争率高いよ～。

山岡 だったら・・・無理かな。

大西 無理、無理。

池上 あまり高望みするな・・・。傷つくだけだって・・・。

植村 あんたらと一緒にしないでくれる。

※ みんなで笑う

高橋 時間があつたら、みんなで稲佐山にいかないか。

西田 稲佐山？

高橋 長崎が一望に見渡せる所。夕暮れから夜にかけてが、最高に奇麗なんだ。長崎に来
たら、絶対行かないと・・・。

林田 確か・・・1日目はクラスごとの分宿だし、夕方からなら自由がきくのかな？村上先
生をお願いしてみようか。

中川 村上先生なら、うんと言ってくれるよね！

大西 おれ、村上ちゃんのクラスでよかった～。

中川 ほんと、それ！

※ みんな口々に話している

木下 (上手から入ってくる) 高橋くん、クラブの遠藤先生が呼んでたよ。

高橋 なんだろ？(上手へ出ていく)

林田 木下さんも手伝って・・・。菜、とじるの、結構大変なんだ。

木下 いいけど。(手伝い始める)

山岡 ねえ・・・さっきの鳥居君ら・・・なんかいらいらしてなかった？

植村 そうかな。前からあんな感じだと思うけど・・・。

西田 確かにいらついていたね。

石原 鳥居は・・・高橋が嫌いなんだよ。

山本 そ、そうなの。

※ 気にしている顔つきの藤井にスポット

池上 鳥居が、高橋を恨むのはわかるな・・・。
谷崎 恨んでる？・・・どうして？
池上 鳥居のやつ、可哀そうなんだよ。2年の時はずっとベンチで、3年生になって、やっとレギュラーになれたと思ったら、高橋が急にきて・・・横取りされただろ。
西田 それは・・・ちょっと気の毒かも・・・。
植村 でも、うまい人がレギュラーになるっていうのは、当たり前じゃない。
大西 勝負の世界はきびしい～！
平川 高橋のほうが、うまいんだから仕方ないな。
谷崎 みんな・・・高橋君の味方するんだね。鳥居くん、ちょっとかわいそうじゃない。
中川 そうよ。鳥居だって頑張ってるのに・・・私は鳥居の肩を持つな。
大西 こんなふうにか！（中川の肩を持つ）
中川 やめてよ。セクハラ！（ば～んとたたく）
大西 じゃあ、お前・・・。
石原 ああ・・・気持ちいい・・・。そこ・・・そこもつと・・・。
大西 15分300円！
石原 だったらいい。

※ みんな笑う。大西適当にやめる。

大西 遠藤先生、最近、松本より高橋に相談して、練習のメニューを考えるらしいな。
山本 ほんと？藤井君。
藤井 うん・・・そういう時もあるかな。
池上 それじゃあ、松本も、いい気しないよな。
藤井 松本はそんなの気にしてないよ。あいつは部長だし、チームが強くなれば、それで嬉しいはずだから。
中川 いつもベンチで応援するだけのあんたには、松本くんの気持ちがわからないわね。
池上 松本、プライド傷ついてるぜ、きっと・・・。
谷崎 村上先生も、最近は高橋に頼むみごとよくするしね・・・。
森本 まあ、いいじゃない。クラスは一応平和なんだから。
山岡 クラブのもめごとは、クラブでやってください。
植村 そういうこと！それより、藤井、あんた、今度もベンチ入りぐらいは、できるの？
藤井 （頷いて）今度も・・・ベンチから必死で応援させていただきます～す。
石原 頼みましたよ！藤井く～ん。

※ みんなで笑う。みんなの輪に入らず、独り作業している木下

暗転

S 教室 放課後その続き

※ 木下・高橋以外が出来上がった葉を運びながら上手へ去る。先に荷物を運び終え、入ってくる藤井とすれ違う。

藤井 浩介・・・おれ、先にクラブ、行ってるから・・・。(下手へ去る)
高橋 ああ・俺もすぐ行く・・・。よし、これで全部終わりっとな・・・。(自分の荷物見る)
あれ・・・ないなあ・・・。(探す)
木下 (本を読んでいたが、高橋の様子に気づき) 何探してんの？
高橋 数学のノート。
木下 (隠されていたノートを渡す) ここにあるよ。
高橋 あれ？・・・おかしいなあ？・・・(手渡され) サンキュー・・・木下・・・まだ帰らないのか？
木下 図書室が開くまで、ここで待機。
高橋 そっか・・・お前って・・・本の虫だな。
木下 ・・・・・・・・。
高橋 おれ、国語苦手なんだ。どうしたら点取れる？
木下 (本を読みながら) そんなのあったら、私が聞きたい・・・。
高橋 この前の国語でのプレゼン、お前うまかったよな～。すぐくまとまって、みんな圧倒されてたぞ。
木下 高橋くん、みんながさ・・・。
高橋 うっ？
木下 ううん。なんでもない。
高橋 なんだよ。言いかけてやめないでくれよ。
木下 あんまり目立たないほうがいいよ。
高橋 ・・・・・・・・。
木下 このクラス、あんまり信用しない方がいい。信用してた奴が簡単にころっと変わる
ことがあるんだよ・・・。私がそうだったから・・・。

暗転

S 幕前 グラウンド

※ バスケットの練習中

鳥居 くそ～・・・。(神崎と二人で下手から入ってくる)
石原 遠藤先生・・・なんだって？
鳥居 谷本の親が電話をしてきたんだ。あいつ、眼の下に殴られた痕があって・・・何も言わないらしい。
神崎 お前ら知らないかっだって。谷本の親、いかにも3年生がやったみたいに言ってきたんだ。
鳥居 高橋！・・・お前・・・変なこと言ってないよな。
高橋 俺？俺は、何も言ってないよ。
鳥居 昨日だって・・・遠藤先生と、何か話しこんでただろ。
高橋 あれは、1年生の練習のことで・・・。遠藤先生に相談にいったんだ。

鳥居 お前か・・・。やっぱりなあ・・・

神崎 遠藤先生に、そのことでもさつき注意されたよ。

高橋 ちょっとしゃべったぐらいで、1年生を何周も走らせるなんて、よくないよ。

鳥居 俺達もそうされてきたから・・・。

神崎 後から入った奴が、クラブのやり方にごちゃごちゃ口出すなよ。

※ どう言ってもいいかわからず戸惑う藤井、やり取りをじっとみている松本。

鳥居 谷本の奴、もともと生意気なんだよ。1年生のくせにろくに挨拶もしない。

神崎 知ってるか、今年の1年生、裏でおれたち3年の悪口言いまくってんだぞ。

高橋 確かに、谷本は、器用な奴じゃないよ。でも、バスケットが好きなのは確かだし・・・おれは1年生がもつとのびのびしたほうが、チームとしてもさ・・・。

鳥居 (すかさず) えらいなあ、お前は・・・やってられないわ。(ボールを投げつける)

松本 雄一、興奮するなよ。

鳥居 お前が来るまでは何もなかったんだ。1年生も俺達に従ってたし、口答えすることなんてなかった。

神崎 お前が来てから、クラブの雰囲気・・・めちゃくちゃ悪くなったんだよ。わかってんのか。(鳥居と一緒に高橋をにらむ。)

松本 それぐらいにしとけよ。雄一、大悟。

平川 それより・・・このことで、クラブ停止ってことになったら、困るよな。大会まであと5日だし・・・。

神崎 (慌てて) 冗談じゃないぜ。

高橋 谷本に、ほんとに手にあげた奴がいるなら・・・まずは正直に名乗りでて謝るに行くのが先決だと思う。

平川 でも、ほんとにそうだったら、遠藤先生、絶対許してくれないよ。

神崎 大会出場停止なんて・・・言わないよな。

松本 遠藤先生は、厳しいし、いったんこうと決めたら、おれ達の意見なんて聞かない。(考え込んでいる)

平川 おい・・・。ほんとに手をあげた奴・・・いるのか・・・。

※ みんな鳥居を見る。

鳥居 (慌てて) おれじゃないからな。あいつには腹立つけど・・・。手をあげるなんてそんなバカなこと・・・おれ絶対しない。あ～あ・・・おれ・・・疑われてんのかな・・・もうバスケット・・・やめようかな・・・。

松本 落ちつけよ。雄一・・・そのうち収まるから、きっと。

暗転

藤井声 結局、クラブの中から、谷本に手をあげたと名乗り出る者は出てこなかった。本場に殴った奴がいたのかどうか、真相は明らかにならないまま、谷本はバスケット部を辞めていった。また1人部員が減った。大会までの空気が一気に悪くなり、おれたちはろくろく練習に集中できないまま、優勝どころか、一回戦で敗退した。

スクリーンが下りてきて、ビデオ（高橋への中傷が一気に広がっているネット画面）が映し出される

S 幕前

※ チャイムが鳴る。休み時間、全員が話しながら上手から下手に移動している

山本 次、音楽、歌のテストだったよね。

西田 私・・・自信ないなあ・・・。

林田 とにかく早く行こう。

高橋（前を歩く藤井に後ろから）浩二さあ・・・聞きたいことあるんだけど。

藤井 な、なに・・・。

高橋 バスケットのLINE・・・昨日送ったんだけど、誰からも返信来なくて・・・。

藤井 わかんないよ。俺には・・・。（足早に立ち去る）

高橋 ・・・・。（戸惑いの顔）

暗転

S 教室

薄暗いライト BGM

※ 大勢がいる休み時間の教室。皆に無視され一人ぼっちの様子の高橋。
高橋の机の上にはごみ。

藤井 N バスケットのLINEは、浩介がいない別グループが作られていた。そこでは、浩介の悪口で盛り上がる毎日。次第に教室でも、浩介は一人ぼっちになってたが、浩介は淡々と毎日学校へ来ていた。でも、そのうち上靴がトイレに捨てられ、物が隠されるなど浩介への仕打ちがエスカレートしていった。

暗転

藤井 N 夏休み、最後のバスケットの引退試合にも姿を見せず、ついに浩介は学校から遠のいていった。そして9月、僕たちの最大の思い出の行事、修学旅行を迎えていた。

※ 長崎の有名なスポットの写真がスクリーンに映る。

S ホテル 大広間

※ 修学旅行1日目の学級ごとの分宿。

夕食を終え、大広間での自由時間。みんなわいわいと寛いでいる。

林田 大西くん、撮ってくれる？

森本 歩実もおいでよ・・・。（手招きする）

大西がカメラを持ち、みんなでポーズをし、写真を撮り合っている。

山岡（カメラを覗き込み）よく撮れてるね！

大西 なんだ、この池上の顔・・・。ははは・・・。（山岡と笑いあう）

※ お土産を片づけている緒方

石原（覗き込みながら）ずいぶん買ったんだな。そんなに買って誰に配るんだよ。

緒方 おばあちゃん2人と・・おじいちゃん。お小遣いもらったし・・、
森本 何・・買ったの？
緒方 チャンボンのセット。この江山楼のが一番おいしって、高橋くんが言ってたから・・。
平川 ・・高橋か・・結局こなかったな。あいつ。
※ 松本、神崎、鳥居の3人がお風呂から帰ってくる。
松本 ああ・・気持ちよかったあ。
神崎 露天風呂・・最高・・。
植村 えっ！ここ、露天風呂あるんだ。(喜んでいる)
松本 誰もいないから、雄一なんて、泳ぎだしてさ・・。
石原 俺も泳ぎに行こう！大西・・行こうぜ。
大西 (頷いて) はい、お供しますぜ！
※ 大西と石原、風呂場に出かけようとした時、田村とでくわす
田村 あの・・・田端中学校の方ですか。
石原 そうですが・・。
田村 よかったあ〜。やっぱりこのホテルだったんですね。ぼく、高橋浩介くんの友達で、田村俊介と言います。
山岡 (怪訝な顔で) 高橋くんの・・。
※ 風呂場に行こうとしていた大西と石原も気になって戻ってくる
田村 浩介、今度修学旅行で長崎に来るので、その時におうって、2か月ほど前に電話くれて。あの〜・・・浩介君は。
植村 高橋くん・・来てないです。
田村 来てない・・。やっぱりそうか(うなだれる)・・。何か、あったんですか、浩介？
鳥居 (ぶっきらぼうに) 別に・・。
神崎 何もないですよ。
田村 最近、浩介にLINEしても返ってこなくて・・。心配になってました。修学旅行に来てないなんて・・病気かなんかですか？
林田 先生からは・・体調が悪って聞いてます。
田村 そうなんですね。もしかしたら会えるかなって思ってたんですが、残念だな。じゃあ、これ、渡しておきます。(林田に手渡す)
林田 (受け取りながら) なんですか、これ・・？
田村 観光ガイドです。明日、自由行動するんですよ。地元の者しかわからない、穴場、チェックしてあります。浩介に前に頼まれてて・・。ガイドブックにない穴場中の穴場を、自分が案内するんだって、あいつ、はりきってたのになあ・・。
※ みんなおし黙っている。
田村 今度こそはうまくいってほしいです。転校した学校は、小学校の時から友達もいて、すぐになじめたって言ってました。特に気にいってたのがクラブです。写真も

よく送ってくれてました。このクラブは部長がしっかりしてるとか・鳥・何とかくんのドリブルが凄くうまくまねできないとか・とにかく、僕たちの学校よりよっぽど強かったんでしょうね。やりがいあるって・ほんと嬉しそうだったのにな。

林田 さっき言ってた「今度こそ」って・あれはどういう意味ですか？

中川 何かあったんですか、前の学校で？

田村 いじめられたんです、あいつ。

山岡 高橋くんが・。

田村 親父さんが会社で不正したとかなんとかで・全くのデマだったんだけど・SNSにいっぱい悪口を書きこまれて・。SNS って関係ない人も送ってくるでしょ。目に見えない相手から、一方的に悪口書き込まれたら、何もできません。卑怯です。僕はそんなあいつを守ってやれなかった。だから、みなさんの学校で楽しくやっていると聞いて、僕ほうれしかつたんだ！（思いつめた感じで机などをたたき、みんな驚く）

藤井 ・。。。（何かを言おうとするが言葉にならない）

田村 浩介、この修学旅行をホント楽しみにしてた。ほんと残念です！（藤井を見て）藤井君ですよ。すぐわかりましたよ。浩介はあなたのこと、一番の親友だって言っていました。俺より仲のいい友達ももう出来たのかってちょっと焼けましたけど。（去ろうとする）じゃあ・明日はどうぞ、みなさんと長崎の街を楽しんで下さい。浩介の分も思いっきり・。（きつい調子で）修学旅行って一生の思い出ですから・。（下手に去る）

※ 田村が去るのをじっと見て、顔を合わせる山岡、林田

緒方 さっき、チャンボンのお店の前を通ったら、ここが高橋くんが美味しいって言ってた店なんだなって・急に思いだして、私・高橋くんにも買ったんだ。でも、どんな顔してお土産・渡したらいいかな。

西田 修学旅行のお土産なんて、高橋・うれしくないかも・ね。

池上 そつとしとととか・。

木下 何がそつとよ。このままでいいはずないでしょ。

鳥居 急に大きい声、出すなよ、木下。

木下 さっきの人が言ってたよね。「修学旅行は一生の思い出」って。私・心にぐさってきた・。今日ね、写真撮ったり、普段しゃべらない人と話したり、自分でも意外なほどクラスのみんなと楽しんだ。高橋くんは味わず・中学を終わるんだよね。修学旅行に来られてないなんて、きっと・きっと大変なことなんだよ。

林田 確かに。でも、木下さんがそんなこというなんて・ちょっとびっくり・。

木下 私・初めはよくからかわれてたよね。このクラスほんと嫌だった。だから昼休みはいつも図書室。嫌なこと言われても、気にしてないってふうに頑張ってたら、そのうち1か月ほどでからかわれる人が変わっていったの。私・それからは、この

クラスにはいつも関わらないようにしてきたんだ。高橋君に対してみんなひどいって思ってたけど、何もしなかった。でもね。さすがに修学旅行まで来ないなんて・・。(思いつめている)

緒方 うん。(涙ぐんでいる)

木下 このクラス、みんな、結構仲がいいように見えてるけど、ほんとそうなのかな。裏では何言われているかわからないって思ってる人、目立たないように気を遣って過ごしてる人、けっこういるじゃないかな。

緒方 小学校もそうだったけど、授業中私が手を挙げて発言したら、わざと数人がくすくすと笑うの。あの頃はクラスで相談する人もいなくて・・学校に行くのが嫌になった時もある。でも・・高橋くんがクラブのことでめだして、標的が高橋くん一人に集中し始めたとき、自分はまだいじめられることになって思ったりして・・私・・(泣き始める)

森本 歩実・・。(緒方に近寄り)

植村 高橋くんが来なくなったのは、あのバスケの一年生の事件があって・・クラブでも疑われたからだったんでしょう。

平川 LINEでの悪口はひどかった。あんな書かれ方したら・誰だってたまらないよ。

池上 このクラスの奴も見てたしな。

植村 あんたも書いてたじゃないの。

池上 あれは・・あれはさ・・。そんなつもりじゃ・・。

木下 そんなつもりじゃなくても、ネットで書かれたら反論できないしグサッと来るんだから。

※ 気まずそうな池上

鳥居 だけだ・・高橋は谷本を殴ったの、ずっと俺だって疑ってた・・それだけは、絶対許せない!

藤井 そんなこと・・浩介は思っていないよ。他の1年生からだいぶ経ってから聞いたけど、谷本のやつ、あの日クラブも塾もさぼって、それがばれたら親に叱られるから、本当のことを言えないって言ってた。塾の途中で自転車から転んだってことで・・最後はおさめたらしい。

鳥居 それだったら、早く言えよ、藤井。

神崎 そ、そうだよ・・鳥居・・お前じゃなかったんだな。

鳥居 当たり前だろ。疑ってたのか、お前。チェッ!

池上 高橋は、・・そのこと知ってたのか?

藤井 「殴ったの3年生じゃないみたいだ」っていったら、「そりゃそうだろう。」って笑ってた。「谷本が言いたくないんだったら、そのうちおさまるだろうから・・そっとしておこう」とも言ってたな。結局、鳥居はやってないって一番信じてたのは、・・浩介だったんじゃないかな。

鳥居 いまさら・・そんなこと言われても・・。

平川 そうだよ。藤井！知ってたんなら、もっと早く言えよ。こんなにこじれる前に。
緒方 私さ、私・・・見たんだ。
山岡 何？
緒方 さっきの1年生の話、私もその時、コンビニにいて・・・何気なく外見たとき、中学
生みたいなのが取り囲まれて、何かせびられてる感じだった。そのうち殴られたし
て、私・怖くて体が動かなくなって・目をそらしたんだ。
山本 そりゃあ、こわいよ・・・。
緒方 コンビニの中は私と同じ、何もしない人ばかりで・・・でも、その中にさあ・・・。
谷崎 誰かいたの？
石原 まさか・・・このクラスのやつ・・・？
緒方 藤井君！藤井君・・・あの場にいたよね。
鳥居 藤井！お前！
平川 初めから知ってたのかよ！
藤井 わからなかったんだ。初めは、谷本だなんて。ただ、殴ってる奴らには見覚えがあ
った。俺に昔喧嘩売ってきた他の中学の連中。俺、顔覚えられてて、あいつら、LINE
にも「残念な奴」とか言って勝手に俺の写真あげたこともあって・・・俺はとにかく
あいつらが嫌で、いつも逃げてた。
鳥居
藤井 殴られてるのが谷本とわかった時は、もっと体が凍んだよ。一瞬谷本がこちらを見て、
俺と目が合ったような気がした。もう怖くて、見てられなくて、その場を立ち
去ったよ。クラブの後輩が殴られてるのに、俺は逃げたんだ。情けないよな。でも・・・
俺が止めなかったというのが知られたら、なんて言われる。副部長のくせに・・・ひ
きょう者、意気地なし・・・だから、谷本に他中の名前で「何も言うな！」って・・・
なりすましてメール打ったんだ。
神崎 だから、黙ってたのか、あいつ・・・。
藤井 それに、俺、計算してた。浩介が・・・浩介が来ない方が俺にとってはよかったから・・・。
木下 何言ってるのよ！藤井君・・・。
藤井 毎回ベンチでも辛いのに、浩介がレギュラー入りしたら、上からレギュラーだった
やつが下りて来て、俺のベンチ入りもなくなる。だから・・・。(口かみしめる)俺
は、副部長なのに、3年間ずっとベンチ。みんな俺のベンチ入りのこと、いつもか
らかってたけど、俺もそれに合わせてたけど、ほんとに試合出たかったんだ。うま
くならなかった。だから・・・夜も走ってたし、休日は誰よりも早く来て練習した。
平川 わかってる。藤井は、いつも一生懸命だったよ。
松本 藤井、ごめん。お前の気持ち、考えてなかったな。いつも準備を後輩としてくれて
て、お前はすごい奴だって思ってた。ほんとだよ。俺はさ、とにかく口下手でさあ。
ほんとに部長なんて・・・がらじゃないんだ。高橋が妬ましかつたよ、後輩はみんな、
部長の俺より高橋ばかり慕うもんな。雄一や大悟が反発してるのをどこかで喜ん

でた。チームをまとめなきゃいけないのにさ。

中川 そんなことない。松本君は何でもできるし・・・だれより頼りになる。

鳥居 俺みたいな文句ばっか言う奴がさ、続けられたのは、松本、お前がいてくれたからだよ。

※ 下を向いている松本

藤井 みんな気づいてなかったけど、浩介、夏休みのあの引退試合見に来てたんだ。

鳥居 ほんとかよ！

藤井 俺が初めて出た最初で最後の試合。コートを出た時、ふと見上げたら、体育館の上から浩介が一人で見に来てた。浩介が笑顔で俺に手を振ってきたんだ。俺はそれを無視した。浩介が来なくなったのは、あれからだよ。親友のおれがそんな仕打ちしたんだからな。

※ 間 BGM

何人が泣いている。松本が涙ぐんでいる藤井のそばにいき肩をたたく。

林田 明日さ、みんなで稲佐山に行くんだよね。

西田 みんなでお金出しあって、お土産買わない？高橋くんに。

大西 受けとってくれるか？あいつ。

山岡 どうだろ。でも、やってみようよ！

※ 大きく頷く鳥居、松本ら数人たちも顔を見合わせて同じく頷いている。

鳥居 何がいいかな。

神崎 高橋の土産か・・・難しいなあ・・・。(笑)

石原 緒方は・・・チャンポン渡すって言ってたから・・・。

山岡 さっきの友達がくれたガイドブック、何かあるかも！

※ 林田・山岡を中心にガイドブックをみている。

高橋の声 稲佐山は素晴らしいよ。長崎が一望に見える展望台なんだ。みんなにその景色を見てほしい。クラスみんなで、あの夕暮れの景色を、心にスケッチしよう。きつと一生の思い出になるからさ。

※ 高橋の声を心で聞きながら、みんなが夕暮れを思い浮かべ、遠くを見ている。

照明は薄暗くなり次第に夕暮れのイメージの色に

間

幕が下りる BGM

スクリーンが下りてきて、ビデオ（誰かが打っているLINE画面）が映る

「高橋、今度お土産持っていきたいんだけど、俺もっていいかな。」

暗転

幕が開き、カーテンコール